

「女ことば」という概念

和泉 悠 (Yu Izumi)

南山大学人文学部人類文化学科・南山大学言語学研究センター・
理化学研究所革新知能統合研究センター (客員研究員)

本発表は「女ことば」という概念にまつわる日本国内での研究を取りあげ、英語圏での概念工学における事例研究と比較し、概念工学実装についての議論に貢献することを目標とする。発表の前半部分では、中村桃子をはじめとする社会言語学者による「女ことば」研究を導入するとともに、特に哲学者の理解と対照しつつ、どのような意味で「女ことば」(ないしは「男ことば」)「概念」が理解されているかを整理する。後半部分では、概念工学における実装の問題を念頭におきつつ、言語変化に関する論点を考察する。いわゆる「女ことば」に分類される自称詞(「わたし」など)や文末表現(「だわ」など)の使用パターンは、日常会話においてもメディア表象においても変化し続けており、発表者が採取したデータなどをもとに、具体例を紹介する。これらを通じて、変化はいかにして可能か、変化すべき／させるべきかどうか、といった問題を検討する。